

自己評価 令和5年度 赤坂台こども園

テーマ「よく見て、よく考えて、なんでもする子」

自然って楽しいな

0・1歳の目標・ねらい

- 野外で過ごすことを楽しむ
- 気候の変化や季節の移り変わりをを感じる
- 運動機能の発達を促す

もも組(0歳児) 「五感を使って」

1年を通して五感を使って様々な経験をした。温かい日差しを体で感じたりプランターに咲くたくさんの花を見ることで、季節を感じられるようにした。シャボン玉や落ち葉シャワーでは視覚を使い、氷、寒天、絵の具、小麦粉粘土などを使っての感触を知る経験を重ね、水遊び、砂遊びなど体全体を使う遊びへの興味に繋がられるようにした。冬には体全体で寒さを感じられるよう戸外遊びを取り入れた。

初めて取り組むことに抵抗があったり嫌がって泣いてしまう子どもが多かったが、様々な遊びの中でも感触遊びを楽しむことで「わからないもの、嫌いなもの」から「楽しいもの、触ってみたいもの」に変わっていく様子があった。また、絵本や季節の歌を通して自然物の名前を知ること、園外散策で保育者や友達と一緒に発見を楽しみ、身の回りの色々な自然物や物事に気付く姿が増えた。

保育者は自ら素材に触れて「冷たい～！」「ツルツル！」と感触を伝えたり、楽しさを伝えることで「やってみたい」の思いに繋げ、安心して取り組みや遊びに参加できるようにした。また子どもたちが気づいたことや、個々の思いを汲み取り言葉で丁寧に語り掛けることで、より興味を持てるようにした。遊びの材料を使うにあたっては誤飲などの事故が無いように十分に気を付け、安全に楽しめるように配慮した。

暑い日や寒い日が続くと、戸外に出るというタイミングを逃してしまうことも多く、特に冬は体調を崩している子どもがいると室内遊びを優先してしまった。体力づくりという面で、戸外に関わらず室内でも運動遊びを考えることで体力づくりにつながられたのではと感じる。五感のテーマから、嗅覚という面では具体的な取り組みが難しく、あまり取り入れられていなかったため、その場その場での言葉がけをすることで匂いというものを少しでも感じられるようにした。

たんぽぽ(1歳児) 「触ってみよう」

1歳児の年齢の自分でやりたいという気持ちを大切に、触れたり、感じたり、やってみたりする経験を積み重ねる事で、出来たという気持ちを持てるようにした。

園庭や赤坂公園に出かけたり、雨、風、外気などの自然の現象や自然物に触れて楽しむ活動を多く取り入れた。散策で見つけたものを見たり、匂ったりする遊びや、水や小麦粉、野菜などの素材に触れて感触を楽しめるようにしたり、外気に触れて肌で感じる事を楽しんだりと五感を使う経験が出来るようにした。そこから、成長に合わせて、手先を使って葉っぱを破ったり、音を出したり、見つけた自然物を収集したり、虫を捕まえたりなど子どもが興味を持ったことを自分でやってみる、遊んでみる事が出来るように取り組んだ。

子ども達は、初めは触れる事に戸惑ったり、怖がったり、保育者を介して経験したりしていたが、遊びを通して触れる、感じるという経験を積み重ねていく事で、自分でやってみるようになり、楽しめる様になってきた。自分から触りに行ったり、嫌がらずに感触を楽しめる様になったり、「冷たい」など自分で感じたことを言葉にする姿が見られるようになった。そうすることで、積極的に遊びを経験したことで出来たことを喜んだり、自分が見つけたものを保育者や友達に知らせて一緒に楽しんだりするなど自信を持ち、保育者や友達と共に楽しむ事が出来るようになってきた。

保育者は、まず、様々な自然に触れられるように、戸外にでる機会を多く持ち、保育者が見つけたものを子どもと一緒に触れて楽しむ事が出来る環境を準備した。また五感を使うという事が分かるように、見る事、匂う事、感じる事などをやって見せながら、言葉でも伝えていき、遊びを楽しめるように関わった。子どもが自分でやってみたり、見つけたことは、共感したり、出来たことは一緒に喜び、認めていく事で子どもが自信を持てるようにした。

1年間の取り組みを行ってみて、1歳児の出来る事の中で、どのように経験が出来るようにするかを考えるのが難しかったと感じ、遊びも季節の物に偏ってしまったり、もっと色々な物に触れられるように種類の工夫が出来たのではないかと思う。また、自分でやってみようと思えるように進める事が難しく、保育者発信のことが多くなってしまった。

2, 3歳の目標・ねらい

- 環境の変化に気づき、興味や関心を持つ
- 体力の増進を図る

ひまわり組(2歳児) 「感触」

感触を十分味わえるように、園外散策では保育者や友だちと一緒に花や虫を探して自然と多く触れ合えるようにしたり、見つけた物や拾った物を保育室で見たり触ったりする時間を作った。菜園で自分たちが育てた野菜の生長を観察し、夏には片栗粉や小麦粉粘土、泥んこ遊びなどの感触遊びをしたり、手先を十分に使いながら楽しんだ。戸外で拾ったり集めた物を保育

室で観察し、より深く知る事で様々な発見を楽しんだ。

子どもは散策に行った時、「これ何？」と花や虫の名前を知ろうとしたり、自ら触ろうとし、自然に多く触れ合おうとする姿が見られた。また、葉っぱの形や色、大きさの違いに気付き、保育者や友だちとの会話を十分に楽しむ事が出来た。季節の変わり目の自然の違いにも気付く子どももいた。感触遊びでは嫌がる子どもが少なかった為、感触を全員が十分に味わえるようにする事で、どの子どもも気持ち良さを喜んでいた。菜園で育てた野菜や花に興味を持ち、「大きくなあれ」と声掛けしたり、生長を感じる事も出来た。

散策に行く時は、個々に袋を用意する事で、子ども達は積極的に集めようとする姿があった。園に帰って見つけた物や拾った物を保育室で見たり触ったりする時間を作り、自然物の形や色、大きさの違いを伝える事で、保育者や友だちと共有する事が出来た。見るだけでなく触って感触を感じられるような言葉掛けをする事で、子ども達が興味を持ち感触を十分に味わう事が出来るようにした。感触遊びでは、ゆったりと遊びが楽しめるようにグループに分かれて行う事で、1人ひとりが興味を持てるように近くで見守るようにした。

保育者が楽しい雰囲気の中で楽しめるようにする事で、子どもは遊びに積極的に参加していた。言葉が増えた事で自然の気付きや発見を保育者や友だちと共有し、会話を十分に楽しむ事が出来ていた。しかし、感触を味わえるような保育者の言葉がけは、園外散策や戸外遊び、感触遊びの時間が多く、日頃からの生活の中では足りなかったように思う。水遊びや泥んこ遊びは経験したが、手で感じる遊びが多かった為、もっと他にも足や全身で感じられるような遊びを取り入れる工夫が必要だった。

ばらぐみ(3歳児) 「色んな色を知ろう」

2歳児クラス後半では遊びの中で色についての認識がまだ不十分であることが感じられたので、遊びを通して色を意識して取り組みが出来るように進め、色についての認識ができるようにした。遊びの中で見つけたものに「これは何色？」と保育者に問いかけることで色に興味を持ったり、見つけた自然物などを写真の掲示で振り返りの時間を持った。色水やどろんこ遊びを通して色が変化することや、同じ植物や葉っぱでも少しずつ色が違うことに気付いた。また、園外散策では同じ場所へ足を運び前回見た時とどのように色が変化しているかを保育者に問いかけることでより色に興味を持った。

子どもは季節の草花を見つけると「黄色、白」など自分の知っている色を保育者に伝えたり、原色ではない色を「何色？」と問いかける姿が増えた。色水遊びで色を混ぜることで、色々な色が作れることを知ったり、新しい色を覚えることが出来た。また、同じ色に見える自然物でも少しずつ色が違うことに気付いたり、季節の変化で葉っぱの色も変化することに気付けるようになった。

保育者は見つけた自然物の色を伝えたり問いかけることで、子ども達が自ら「何色？」と考えられるよう声掛けをするようにした。写真や図鑑を使い子ども達が探せるように促したり、見つけたものを見比べることで色の違いに気付けるようにした。散策では何度も同じ場所へ

行き季節によって色が変化する様子を伝えるようにした。

色々な色を知り変化に気付けるようにしたことで、色に興味を持つことが出来、色水あそびでは、色を混ぜることで違った色が作れることも知り色の名前の習得にも繋がった。画用紙やクレパスなどを使い色を目で見分けるようにしていたが、色水や葉っぱの色の变化などにカラーチャートなど参考にするなどの工夫をすればより多くの種類を知ったり興味を持てたのではないかを思った。

4, 5歳の目標・ねらい

- 自発的に活動しようとする
- 状況に適応できるようになる
- 身体的バランス能力を育む

あやめ組(4歳児)「葉ってどんなの？」

公園で見かける「葉」についてもっと知ろうとし、葉のこすりだし、イチヨウの木の葉の観察や絵画製作などを楽しんだ。また季節によって葉の色や形・柔らかさの違いを知り、その他の葉にも関心を持ち1年間観察をした。

散策する中で、いろいろな形の葉を見つけ、「かさみたいに大きい」「ハートの形」「手に似てる」とそれぞれの発見を子ども同士で共有していた。葉脈のこすりだしでは、力加減が難しく中々出てこなかったが、段々と葉脈の形が出てくると「1本の線に繋がっている」と発見し、絵画製作にも表現していた。イチヨウの木の観察では、四季に応じて写真を撮る事で「葉が増えた」「緑から黄色になった」「銀杏ができていく」という変化の気付きがあった。

1年を通してイチヨウの葉の変化を感じられるように写真で残すようにし、子どもたちと共有する中、変化を話し合いメモに残した。散策中は色々な葉の発見に耳を傾け「何にみえるかな?」「何色かな?」「においは?」等、興味を引き出すような言葉がけを心がけた。葉には栄養を運ぶ「葉脈」があることを最初に知らせ葉の裏にも目を向けるような言葉がけをするだけでなく、葉の裏に虫の卵があったり、虫が食べていたりする事にも気づけるようにもした。「葉」というテーマの中で「葉脈」があることを目的としていたので、「葉」のこすりだしを行った。最初にコンテを使用したが、扱いが難しかったようでも中々葉脈が出なかった。次は、色鉛筆で紙や葉の硬さ等考慮して行った。葉脈の模様が出ることで、子どもたちの関心を向けることが出来たと思うが、初めに「こすりだし」を事前にしっかり保育者が試しておき、実際の子どもの反応にしっかり対応すべきだった。また、保育者の用意だけではなく「どうすべきか?」を子ども達と一緒に考えて、色々な葉や画材を試せばよかった。

1年間イチヨウの木を観察して写真に残すことで、四季折々の変化について子どもと一緒に話し合えた。緑の葉が黄色になっていくことや銀杏の匂い・種になること・葉が落ちててもまた新しい芽が出て葉になる事等気付きがあった。その時々様子はメモだけではなく、子どもたち1人ひとりの観察記録を残すようにすることで後日見返したりでき、より関心が深まったので

はないかと思う。散策中に見つけた葉に対して、「〇〇に似ている」という見立て遊びだけでなく図鑑などを見て名前があることも知らせるべきだった。

ゆり組(5歳児) 「木と触れ合う」

園庭、園外でよく木を目にし、身近に感じることから、園庭、近隣の赤坂公園の色々な木を観察し、名称、葉、四季の変化を調べたり、木の違い、葉の違いを観察し遊びの中でより木にふれあうようにした。桜の木の花を観察し、色、名前、におい、花弁の数を数えた。みつけた葉を使って、色水遊び、こすり出しをしたり、どんぐりを使った遊びや製作、紅葉も観察した。冬の葉がない木を見て冬から春にかけつぼみが出来ているのを見つけたりした。また、木に止まっているセミを見つけたり、同じ場所の桜の木の観察を行い、四季の変化に気付けるようにした。また、自然物を見つけたら持ち帰ってじっくり観察し、スケッチしたり虫メガネで見たり、違いを図鑑や絵本を使って調べられるようにした。

小さい時からふれていた色々な木をじっくり観察する事は今まで無かったようだったが、観察する事で枝、葉、花の違いに気付けるようになった。違いを見つけると他の木はどうなんだろう？と探求心にも繋がっていた。葉のスケッチでは何度も繰り返すと葉の葉脈、色の違いに気づき、見つけた虫の足など細かい所まで興味を持つ様子があった。みつけたどんぐりにも形の違いがあり、「何ていう名前かな？」と自ら図鑑で調べ、子ども同士で発見した事を話しあうようになった。また、同じ場所に行く事で、花や葉が散っていたり、葉の色が変わっていたり、変化しているのを楽しみにし、四季の変化に気付けるようになった。子ども同士で考えて、紅葉から見つけた種を育てたいなど保育者に提案し、育つ過程を楽しみにしながら変化に気付いていた。

保育者は木に関心が持てるように、色々な木にふれ、繰り返し観察するようになり同じ場所に行き、違いに気付けれられるようにした。どんぐりを使った遊びでは、段ボールなどの廃材を用意し、コースをいつでも作れるように環境を整え、子ども同士で協力して遊びを広げられるようにした。子どもからの発信を待ち、子ども達から育てたい、持って帰って調べたいという欲求が育つように援助した。また、同じ木でも環境によって紅葉の違いに気付けるように言葉掛けると、なぜなのかをみんなで考え、暗い場所は陽が当たっていないから影になり葉が緑色、よく陽が当たる場所の木の葉は赤くなっているなど、子どもの気付きを共有し、光や影にも関心が持てるようにした。木に触れた時は必ず振り返る時間を作りみんなで発見した事を話し合うようにした。

木とふれあうことで四季の変化に気付いたり、木からとれるどんぐりや葉を使って、遊びこむ環境を作り、友だち関係が広がるように計画したが、観察する場所の範囲が広すぎたと感じる。木について関心を持ち、子ども同士で考えられるようになっていたが、もっと範囲を狭くしたら、より深い気づきがあったのではと思う。どんぐりを使った遊びなどでは、他クラスを誘い一緒に遊び、交流する機会をもっと作るようにすれば良かった。木の枝などから加工したり、何かを作るなど、もっと見つけた物で遊びこむ事が出来たのでは思う。